P-051

保護者と子どものかかりつけ医との対話に影響する要因

山田 晃子
奈良県立医科大学

【目的】
保護者と子どものかかりつけ医（以下、かかりつけ医）との対話は、子どもの健康を守る基盤である。保護者とかかりつけ医の対話を促す要因、または妨げる要因を明らかにすることを目的とした。
【方法】
調査対象者は、内科的治療を継続して受けていない 6 歳以下の子どもをもつ保護者とした。調査期間は、2022 年 7 月～ 9 月であった。子育て支援施設の利用者から参加者を募り、子どもがかかりつけ医を受診した時の経験について半構造化面接法を行った。面接内容を IC レコーダーに録音し、逐語録を作成した。逐語録から、対話の定義に基づき、かかりつけ医との対話を促す要因、または妨げる要因を抽出して、コード化を行った。次に、コードを類似性に沿って分類し、カテゴリー化した。対話の定義は、先研究を参考に『保護者によりそい話を傾聴する医師と互いの意見のやりとりを通して、保護者は自分のことを理解してもらい唯一の人間になれることを実感し、医師と信頼関係を築き、意思決定ができる過程』とした。同意を得た保護者 4 名にはメンバーチェッキングを実施した。分析過程では、小児看護を専門として質的研究に精通している研究者から、スーパーバイズを受けた。所属機関の研究倫理審査委員会の承認後に調査を実施した。
【結果】
5 名の保護者が参加した。かかりつけ医と保護者との対話を促す要因、または妨げる要因は、《医師の対応への信頼》、《保護者の不安に応える言葉》、「保護者の話をゆっくり聞いてくれる」「子どもへの積極的な語り掛け」などの《医師から保護者と子どもへの積極的な関わり》、《聞いたことへの適切な対応》、《再診のタイミングや見通しの説明》、《子どもよりも医師のペース》、「子どもを見ながら集中して医師の話を聞かないといけない」「診察室のその場の雰囲気で分かったつもりになる」など《診察室で医師の話に集中することが困難》、《手早く終わる診察への備えが必要》、「気になることが大丈夫で終わってしまい困惑」「子どもの症状の原因への説明がないことを受け入れるしかない」など《医師の対応への困惑》が明らかにされた。
【考察】
保護者とかかりつけ医の対話が促されるためには、子どものペースに合わせた対応、保護者が話しやすい雰囲気、保護者の関心や心配に対する納得できる説明が大切であることが示された。本研究は科学研究費助成金を受けて実施した (19K11071)。

P-052

乳幼児身体測定結果の季節変動に関する検討

杉浦 至郎 [1]、山崎 嘉久 [2]、森崎 菜穂 [3]、磯島 豪 [4]、盛一 享徳 [5]、加藤 則子 [6]、横山 徹爾 [7]

[1] あいち小児保健医療総合センター 保健センター
[2] あいち小児保健医療総合センター
[3] 国立成育医療研究センター 社会医学研究部
[4] 虎ノ門病院 小児科
[5] 国立成育医療研究センター小児慢性特定疾病情報室
[6] 十文字学園女子大学 教育人文学部
[7] 国立保健医療科学院 生涯健康研究部

【背景】
母子健康手帳に記載されている成長曲線作成の元データとなる乳幼児身体発育調査において、これまでの調査方式に加え、乳幼児健康診査（健診）で得られた情報を活用することを含め検討が行われている。身長の伸びには季節差があることが知られており、これまで乳幼児身体発育調査は 9 月に施行されてきた。しかし本邦において、乳幼児健診で測定される身長体重測定値の月間変動に関しては十分な検討がなされていない。愛知県では全ての乳幼児健診結果が電子化され保存されており、このような評価を行うのに適した情報が容易に入手可能である。
【目的】
愛知県の乳幼児健診における身長、体重測定値（集計値）の測定月による違いを評価する
【方法】
1 歳 6 か月児健診の測定値は、身長が臥位で測定されており、受診者のほとんどが 17-19 か月に受診している 3 つの市における 2016-18 年の測定値を用い、そのうち実際に 17-19 か月に測定されたデータのみを抽出して使用した。また同様に、3 歳児の測定値は受診者のほとんどが 35-38 か月に受診している 2 つの市のデータを使用した。
【結果】
1 歳 6 か月児健診（n=11,766）の身長測定値平均値 (標準偏差) は 79.0(± 2.7)cm であり、測定月毎に見ると 8 月で最高の平均 79.2(± 2.8)cm を示し、3 月で最低の平均 78.6cm(± 2.7)cm を示した。一方体重は、年間平均で 10.2(± 1.1)kg、測定月毎の最高値は 10.2(± 1.1)kg、最低値は 10.0(± 1.0)kg であった。
3 歳児健診 (n=7,318) の身長測定の年間平均は 92.3(± 3.4)cm であり、測定月毎に見ると 7,9 月で最高の平均 92.6cm(± 3.4) を示し 1,3,4,12 月で最低の平均 92.1cm(± 3.4) を示した。一方体重は、年間平均で 13.5(± 1.5)kg、測定月毎の最高 13.4(± 1.4)kg 最低 13.6(± 1.5)kg であった。
【結論】
乳幼児健診における身長測定値には季節変動が認められた。乳幼児健診などの測定値を用いる場合には測定月を考慮に入れることが必要であると考えられた。
この研究は、厚生労働行政推進調査事業費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「乳幼児の発育・発達、栄養状態の簡易な評価手法の検討に関する研究」（21DA2001）として行った。

Presented by Medical*Online